

## 令和3年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

1 開催日時 令和3年8月25日(水)午後3時00分～午後4時30分

2 開催場所 伝国の杜2階 第1、第2小会議室

3 出席者

(委員) 10名出席

中村 純一(置賜地区高等学校教頭会会長)

伊田 吉春(中学校教頭会会長)

今野 孝義(小学校教頭会会長)

新井 千香代(伝国の杜ファンクラブ)

前山 みゑ子(伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド)

山根 秀樹(米沢古典塾主宰)

永井 学(米沢男声合唱団指揮者)

高野 正雄(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)

布施 賢治(米沢女子短期大学教授)

山村 洋子(原始布・古代織参考館副館長)

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次(理事長)、島津眞一(副理事長兼博物館長)、渡部洋己(常務理事兼事務局局長)、花田美穂(学芸担当主査)、阿部哲人(主査)、安部理絵(主任)、寒河江大輔(総務担当主査)小松史織(主事)、鈴木里津(主事)、齋藤佳奈(主事)

4 開会

5 あいさつ(理事長)

大変お忙しい中、ご出席頂き心から御礼申し上げます。本日は、6名の新任委員を含め、10名の委員に出席頂いた。改めて、委員のお願いを申し上げたい。

伝国の杜は、特にコロナ禍の自粛の影響を受けており、今年度も一昨年と比べて、博物館、ホール共に利用者が半数程度に減少している状況である。しかし、こうした厳しい状況の中であっても、多くの方々に来て頂けるような施設であるために、委員の皆様には運営について率直なご意見を頂戴したい。

6 委嘱状交付

委嘱期間は令和3年6月1日から令和5年5月31日まで。

7 委員自己紹介

8 会長及び副会長選出

互選により、会長に布施委員、副会長に高野委員を選出。

9 情報公開について

事務局より本運営協議会の会議及び議事録は原則公開としたい旨を提案し、了承を得た。

10 伝国の杜運営協議会の位置付けと主な活動について

概要を事務局から説明。

11 協議

(1) 令和2年度の事業概要と令和3年度の事業計画について

概略について事務局から説明。

(2) 意見交換

(ア) 伝国の杜（上杉博物館・置賜文化ホール）に期待すること  
趣旨について事務局から説明。

(委員) 伝国の杜に来館する人の属性はどのようなものなのか。

(事務局) 正確な属性調査はしていないが、博物館については市外の観光客の方が多いと感じている。また、市内の場合、授業の一環として小中高生の来館が多いと認識している。

(委員) 展覧会のチラシを校内に設置しているが、なかなか生徒の手に行き渡らず、それが課題であると感じている。また、歴史系の展示だけではなく多くの生徒が興味を持っている自然科学系をテーマにした展示を行って頂けると、足を運びやすいのではないかと。また、生徒の活動の一つの場として、展示の見学だけではなく、伝国の杜の事業企画や運営などにも、生徒が関わらせてもらえるような取り組みがあるとありがたい。

(事務局) 生徒の企画運営への参画について、日々若年層のアイデアが必要であると感じている面がある。しかし、通常業務などもあるためご意見も含め模索していきたい。また、博学連携について、ホールでも少しずつ動き始めている。最近では、授業の一環としてホールの舞台裏の見学や能楽の研修の依頼を個別に受けている状況であるので、これからも地域に還元していきたいと考えている。最後に、広報物などの情報発信について、学生等の若い層へのツールとして Facebook 等で情報発信しているが、情報にたどり着かないと意味がないため、内容を工夫する必要があると考えている。

(委員) 生徒が来館し見学するだけではなく、出前講座として学芸員の方に授業をしていただくなど、いろいろな形で勉強させて頂いており、引き続きお願いしたい。また、配布資料2「資料の収集の事業」の項目で、昨年度は新規の資料22件受け入れとあるが、具体的にどのような内容であるか。

(事務局) 資料収集は、基本的に資料収集の基本方針に沿って行っている。昨年度の収集資料は、年報p26以降に取りまとめているのでご覧いただきたい。昨年度は主に歴史系資料の受け入れがほとんどであったが、美術資料も収集している。

- (委員) 企画展や教育普及の事業については素晴らしい内容であるので、私達大人が子ども達に伝えていく必要があると思う。また、様々な人が広く参加してもらえるような企画を今後も続けてもらいたい。
- (委員) コロナ禍であるため、ギャラリートークなどの定員を定めたり、必要に応じて中止にするなどよく対策しており安心して利用できると感じている。また、昨年度の宇宙の旅のトークイベントでは一流の講師の話聞く機会があり、ありがたく感じた。
- (委員) コロナ禍で伝国の杜サポーター活動やおもしろなガイドの活動も制限されている。しかし、その中でもコレクショントークやギャラリートークなどを工夫して行っているため、是非多くの皆さんに参加して頂きたいと感じている。
- (委員) 米沢の人口減少が進んでいる中で入館者数を増やすには、福島県も含めた近隣市町のその専門分野の愛好会など興味を持ちやすい人にピンポイントに広報してはどうか。また、町内会の隣組回覧を活用してはどうか。ホール事業に関しては、地元の企業の協力を得て席を買い取ってもらい、学生を招待するのはどうか。
- (事務局) 特定の文化団体へのPRであるが、事業によって様々ジャンルがあるので、それぞれチラシ送付先を絞りPRしていきたいと考えている。
- (委員) せっかくホールと博物館が同じ施設にあるので、互いの催事に来館した人に見学を受付で声掛けをしたり、チケットの半券で割引になるサービスを行うのはどうか。
- (事務局) チケット割引サービスについては、ホールチケット半券を持参すると展示室の入館料が2割引になるサービスを一部の公演で既に行っているが、PRが上手くいっていないため、より多くの人に知ってもらうようなPRを行ってきたい。
- (委員) 資料2に「展示解説などの動画配信」とあるが、今後の取り組みとしてどのような内容で考えているのか。また、より多くの人に来館して貰うには、同じ方に繰り返し来て頂けるように県外の観光客への広報活動が必要である。観光客が何を目的で来館したかなどを把握できるようなアンケートを行い、広報活動に活かしてはどうか。
- (事務局) YouTubeの動画配信については、シナリオ作成、撮影、編集を全て学芸員が行っており、多くの時間と労力がかかっている。日々の展覧会準備などもあるため、時間捻出が難しいのが現実である。今後の発信内容については、担当間で練り上げて検討していきたいと考えている。また、アンケートについては来館者に外部評価として収集している。その中で、催事情報の提供希望があれば連絡先を記入できる欄があるため、そういった方の掘り起こしや回収率を高める工夫をしていく必要があると感じている。情報の発信の仕方について、多くの提案を頂いたので、本日のご意見を参考に今後研究していきたいと思う。
- (委員) 最近の子ども達の中で、歴史や郷土に興味がある子がどのくらいいるか不安に思うことがある。展示事業はもちろん、ホール事業も年間多く催事を行っているので、市内の学生を催事に招待すれば、興味を持つ子どもが増えるのではないかと思う。
- (イ) その他  
特になし。

1 2 閉会

(事務局) 長時間のご協議ありがとうございました。多くの意見を頂き、大変ありがたく感じている。次回の運営協議会は12月を予定しているため、御協力をお願いしたい。また、ホール事業と展示事業評価シートを郵送させていただきますので、そちらの事業評価にも御協力をお願いしたい。

以 上